

## 一橋陸上競技倶楽部理事会議事録

日時 : 2018年6月8日(金) 18:30~20:30

場所 : 如水会館 14階一葉

出席者(敬称略):

(理事会) 浜田、岩瀬、大鳥羽、井田、中村(龍)、日渡、伊丹

(特別参加) 定成俊政、斉藤和樹

(学生幹部) 河野主務、浅井津田塾主将

### 1、OB・OG 戦兼懇親総会について

毎週のようにメールでOB・OGにメールで参加を要請してきた。現在の処、24~25名の参加予定。当日の競技種目は最終Fixまで行っていないが、競技種目を含めてと当日の運営について細部詰めていく。(以上、日渡理事より)

事前に名簿を作成し、当日受付で参加費用の受領や、特製ユニフォーム(サイズの記録も)手交をきちんとできるように体制を練ってほしい。今後の運営ノウハウの伝授を考えて、当日は1年生女子を積極的に動員してもらいたい。(以上、浜田会長より)

### 2、OB・OG 訪問について

配布資料に沿って井田理事から説明。中村(龍)理事が名簿の最新化を6月末めどに進めていて、これが整備された段階で、連絡が付かない会員や昨年実施した時に連絡を付けられなかった会員などを先に対象から外して、訪問対象者を再度整理する。6月末~7月頭に井田から河野主務に訪問対象者リストの基となるエクセル表データを渡して、学生内部で訪問分担を固める。7月~8月にかけてOB・OG訪問を展開し新たに年会費をいただけた会員を確認し、この時点でも未納付の会員に対して、9月に再請求をする。

### 3、監督・助監督・コーチの選任手続きについて

これまではきちんとした手続きが不明瞭だった。理事会が知らない内に監督・助監督・コーチが新たに替わっていたりしていた。この反省から、監督については理事会の承認事項、コーチについては理事会への報告事項とする。また、助監督の位置づけが今一つはっきりしていなくて「助監督」というタイトルはあったというのが現状。議論の結果、助監督というタイトルが無くても実質的な機能発揮は可能ということから、今後は助監督という呼び方は止めることにする。本日配布された「監督、助監督、コーチの選任手続の運用」の文面は、「助監督」という表記を削除、「クラブ運営」の記述は「競技部運営」に書き換えるなど、後日見直すこととした。(以上、浜田会長より)

### 4、沖縄合宿について

今後この遠征合宿をどうするかどうか、河野主務から現役部員たちの声を紹介しても

らった。それによると、2年生を中心に多くの部員が反対。旅費コストが高い、国立での練習環境が良いのでわざわざ沖縄まで行く必要もない、去年試行したパート毎の強化練習期間で十分な効果を感じられた、等が反対意見の背景にある。ただこれは過去の経緯を知らぬ者だけの議論であり、来春実施しなければ長年に亘る琉球大学との交流の歴史が途絶えることになる。そこで ATHLETIK FREUND や資料等で過去の経緯や交流する意義を十分把握し、主将同士で連絡を取りあって先方の意向（前回 2015 年は先方からの強い働きかけがあった）を確認したうえで学生が再度検討することとする。

#### 5、競技場公認検定（更新）について

岩瀬幹事長から去る 5 月 27 日の検査結果の報告（添付参照）があった。競技場としての公認は当然必要であるので、指摘された設備や用具の更新充実については学生支援課の理解をいただいて進めていく。また、指摘された「草の刈取り」については、現役部員が定期的にこまめに実施していくことでよく整備された競技場を維持していく。

#### 6、早実のグラウンド使用の件について

現役部員からメリットが大きいという評価。これは継続していくことに。ちなみに現在、月曜日は短距離、金曜日は長距離の選手が練習に来ている。

#### 7、その他

5 月 27 日の我がグラウンドにおける東京都連による中高校生強化練習会は、約 60 名の中高校生が参加。どちらかという中学生の方が多かった。男女比は半々。後藤監事の発案で、強化練習会に選抜されてやってきた生徒や付き添いの先生方に、将来一橋大学に挑戦し合格して陸上部に入って来てもらえるきっかけとなるように、我らが陸上部の PR コメントを挿入したバラまきティッシュを配布した。

以上